# PBL3: 演習

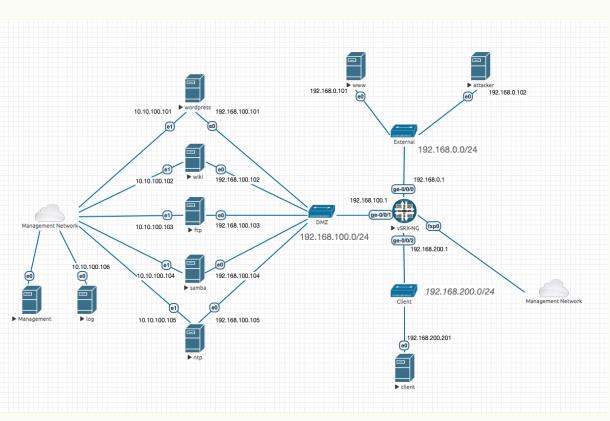
東京大学 明石邦夫

## 演習

## 演習環境

- EVE-NG
  - ネットワーク機器を動作させるエミュレーション基盤
  - Cisco、Juniper、F5 など多数の機器が扱える
    - 仮想アプライアンスのイメージファイルは自分で用意
- 今回は Juniper SRX の仮想版である vSRX を使用

## 演習内容



External、DMZ、Client ネットワークがある環境で、Firewall の設定を行う

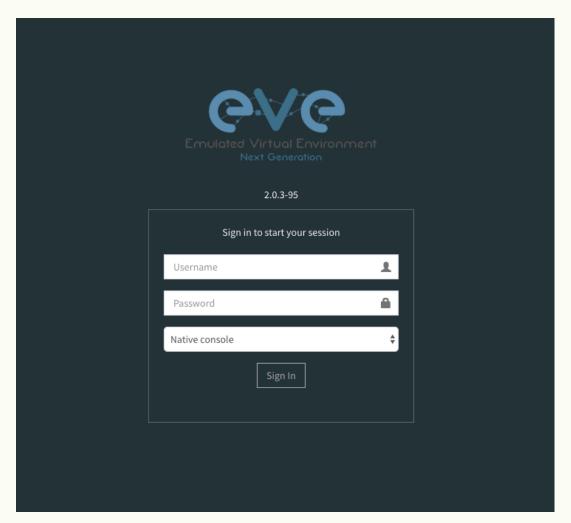
また、各サービスに対して適切なポリシーを設定し、それが正しいことを確認する

## 演習環境へのアクセス

- ●https と ssh でアクセス可能
  - ●どちらも Boundary から接続する必要あり

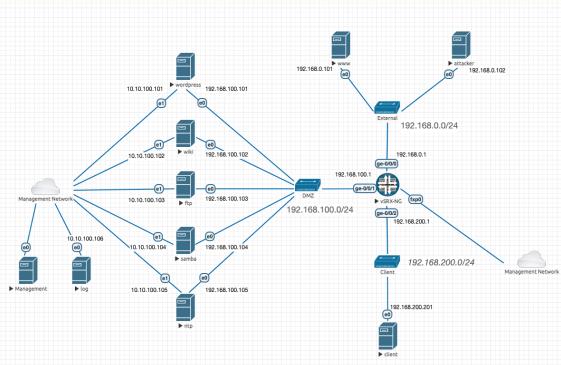
## EVE-NG の使い方

- ブラウザでアクセス
- ログイン画面
  - ユーザ名: admin
  - パスワード: eve
  - 3つ目は HTML5 console

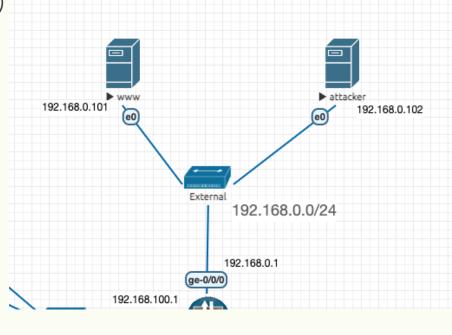


## 演習環境の操作方法

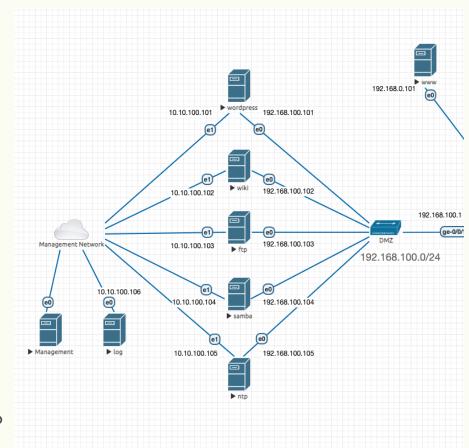
- ログイン後、ネットワーク図が表示される
  - ・ はFirewall のアイコン
  - はサーバ/クライアントのアイコン
  - はスイッチのアイコン
    - 今回は操作不可
  - Firewall、サーバ/クライアントは 起動していればクリックすると画面が切り替わる



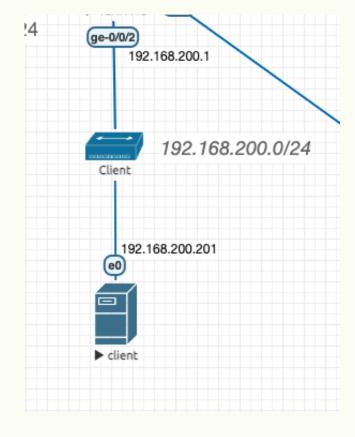
- External
  - インターネット上のサーバ、クライアント(の想定)
    - 外部からの到達性
      - 攻撃された場合に防御できているか
      - 外部公開しているサービスにアクセス可能か
      - を確認するために使用



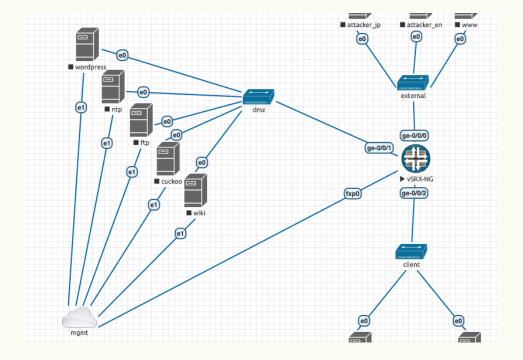
- DMZ
  - 社内サービスのネットワーク(の想定)
    - http、ftp、ntp などのサーバが動作
    - 内部専用、外部に公開するサービスが混在
    - 内部専用サービスは内部からのみ外部に公開しているサービスは外部からもアクセスできるかを確認するために使用
  - DNZ のサーバはすべて英語キーボードとなっている
    - 日本語キーボードの場合、記号が打てない場合がある
    - 後述する ssh でログインして操作すること



- client
  - 社内のクライアント(の想定)
    - 外部への到達性
      - 正しく外部のサービスにアクセスできるか
      - 社内のサービスにアクセスできるか
      - 外部からクライアントに攻撃されないか
      - を確認するために使用

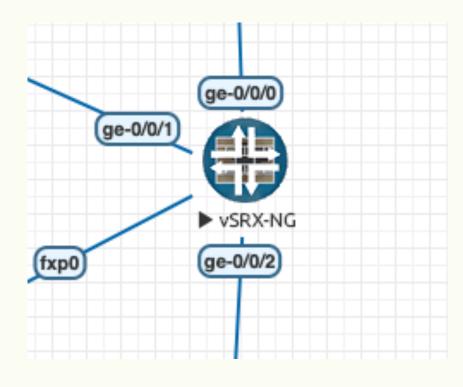


- mgmt
  - 演習環境の管理ネットワーク
  - enpit-gw.jais.co に ssh するとアクセス可能
  - 踏み台からログインして操作
  - 各サーバへは ssh
  - SRX へは telnet/ssh が可能
- mgmt のアドレスは
  - 100.64.X.Y/24
  - X はアカウント名の pXXX の XXX
  - Yは DHCP でアドレスを取得するようサーバに設定済み
    - 設定されるアドレスは別途記載



#### **Juniper SRX**

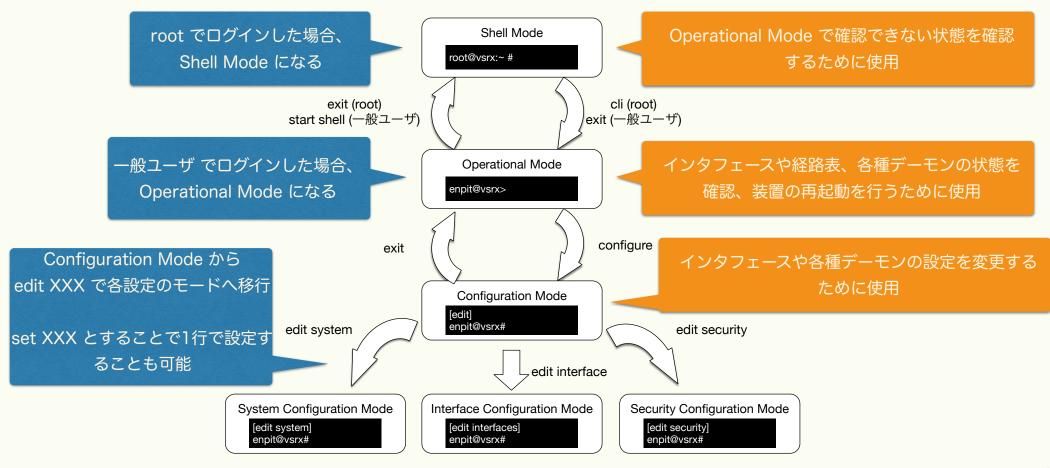
- Juniper が開発している Firewall 製品
  - Firewall 以外にもルータとしても扱える
  - IDS/IPSアンチウイルス
  - アンチスパム
  - Web フィルタリングなどが可能
  - OS として Junos が動作
- 今回の演習のセキュリティデバイス



#### **JUNOS**

- Juniper 製品で使用する Network OS
  - Juniper 製品はほぼすべて JUNOS で設定
- SRX は用途によってパケット転送方法を選択
  - Flow-based forwarding: ステートフルインスペクションモード
  - Packet-based forwarding: ルータモード
- telnet/ssh、http/https、シリアルコンソール接続で操作が可能
  - 今回は telnet/ssh、シリアルコンソールのみ
- Junos は初期状態ではほぼ何も設定されていない
  - ユーザアカウント、root パスワード、管理ネットワークから設定を行う

## JUNOS: Shell / Operational / Config モード



## Junos: ログイン

- コンソールでアクセス
  - 初期化後は root でパスワードなし
  - ログイン後は最初に root のパスワードを設定すること
    - パスワードを設定しないと設定を反映できない
- root でログインすると shell が起動
  - Operational Mode へは cli コマンドで移行
  - 設定を投入するためには configure
- 一般ユーザでログインすると cli モード
  - shell に移行する場合は start shell

#### Junos: 設定フォーマット

- 各項目ごとに階層化
  - system
  - interfaces
  - protocols など

```
enpit@vsrx-1> show configuration | no-more
system {
/* ホスト名やユーザ、ログ関連などのシステムパラメータの設定 */
security {
/* セキュリティ関連の設定
   ゾーン間のポリシーやフィルタリング、IDS/IPS、IPsec や pki などの設定
   NAT、VPNに関する設定
 */
interfaces {
/* インタフェースの設定 */
policy-options {
/* ルーティングプロトコル、FIB などに対するポリシーの設定 */
protocols {
/* OSPF、BGP などルーティングプロトコルの設定 */
routing-options {
/* rib の操作や flow の制御などパケットフォワーディングに関する設定 */
routing-instance {
/* VRF や仮想ルータ、vpn に関する設定 */
```

## Junos: 設定の追加方法

- 設定の追加は set で行う
  - 階層の key を入れると次の階層に下がる
- 例:
  - ユーザの追加は

```
set system login user enpit class super-user
```

設定の追加

```
system {
    // 省略

login {
    user enpit {
        uid 2000;
        class super-user;
        authentication {
            encrypted-password "XXX"; ## SECRET-DATA
        }
      }
    }
    // 省略
}
```

## Junos: 設定の削除方法

- 設定の追加は delete で行う
  - 階層の key を入れると次の階層に下がる
- 例:
  - ユーザの削除は
     delete system login user enpit
    - user enpit 以下がすべて削除される

```
system {
    // 省略
    login {
        user enpit {
            uid 2000;
        class super-user;
        authentication {
            encrypted-password "XXX"; ## SECRET-DATA
        }
        }
        Cの範囲の設定が削除される
        // 省略
}
```

#### Junos: 設定を一時無効にする方法

- 設定の無効化は deactivate で行う
  - 階層の key を入れると次の階層に下がる
- 例:
  - ユーザの無効化は deactivate system login user enpit
    - user enpit 以下がすべて無効にされる
- 無効にされている設定は、inactive: で表現される
  - 再度有効にする場合は、activate system login user enpit

#### Junos: 設定の commit

- 設定の反映
  - Configuration モードで行った設定は Candidate Configuration ■
  - 設定を反映させるためには commit コマンドを実行
    - commit 実行時に設定が正しいかを検証
    - 事前に検証したい場合は commit check を実行
  - commit confirmed X と実行すると、X 分後に元の設定に戻る
    - 再度 commit を実行すれば永続的に反映
    - 変更後の動作に不安がある場合に使用
- 設定の rollback
  - commit した設定は最大 50 世代まで保存
  - rollback コマンドで過去の設定に切り戻しが可能

```
[edit]
enpit# delete security screen

[edit]
enpit# commit check
[edit security zones security-zone untrust screen]
   'screen untrust-screen'
    referenced ids-object must be defined under [security screen ids-option]
error: configuration check-out failed: (statements constraint check failed)
```

security の screen を削除した後、commit すると。。
security zones security-zone untrust で screen
の設定を参照しているため commit できない
メッセージが表示される

#### Junos: 設定の rollback

- 設定のロールバック
  - ある時間に commit したときの戻すコマンド
  - デフォルトでは50世代管理される
- rollback X でその時の設定がCandidate Configuration に反映される
  - 直前の設定は rollback 0

```
[edit]
enpit# rollback ?
Possible completions:
 <[Enter]>
                      Execute this command
                      2020-10-12 04:59:52 UTC by enpit via cli
                      2020-10-12 04:59:45 UTC by enpit via cli
 2
                      2020-10-12 04:59:21 UTC by enpit via cli
 3
                      2020-10-12 04:59:17 UTC by enpit via cli
                      2020-10-12 04:52:53 UTC by enpit via cli
                      2020-10-12 04:52:48 UTC by enpit via cli
 6
                      2020-10-12 04:51:51 UTC by enpit via cli
                      2020-10-12 04:51:46 UTC by enpit via cli
                      2020-10-12 04:49:32 UTC by enpit via cli
                      2020-10-09 05:54:24 UTC by root via cli
 10
                      2020-10-09 03:56:52 UTC by root via cli
 11
                      2020-10-09 03:33:53 UTC by root via other
                      Pipe through a command
```

## Junos: 設定の rollback compare

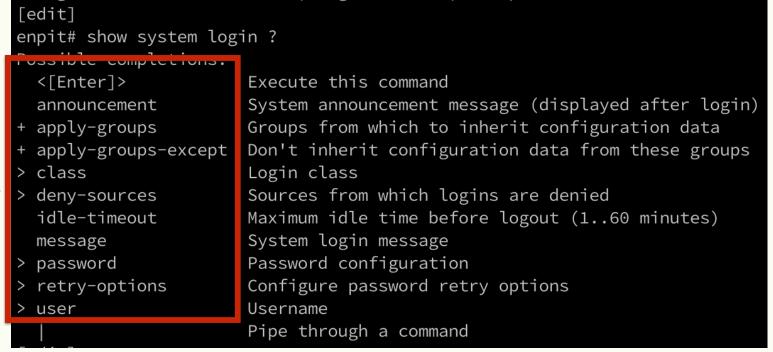
- 保存されている過去の設定の差分を表示
  - show system rollback compare X Y
  - XからYへの変更を表示
    - 追加された設定は +、削除された設定は -

```
enpit> show system rollback compare 10 0
[edit system]
+ login {
+ user enpit {
+ uid 2000;
+ class super-user;
+ authentication {
+ encrypted-password "$6$RE0031BzdyWM2QpaM/"; ## SECRET-DATA
+ }
+ }
+ }
[edit system services ssh]
+ root-login deny;
[edit system services]
+ telnet;
```

#### JUNOS: 設定に困ったときは?

• ?を入力すると、そこから入力できるコマンドの一覧が表示される

これらのコマンドが 次に入力可能なコマンド



#### JUNOS: ユーザの追加

- 初期設定では root 以外のユーザは存在しない
  - root もパスワードは未設定
    - root のパスワードを設定しないと commit 時にエラー
- ユーザ作成にはクラスとパスワードを設定
  - クラスはユーザの権限
    - super-user: すべての権限
    - operator: パーミッションのクリア、ネットワーク、リセット、トレース
    - read-only: パーミッションの参照
    - unauthorized: パーミッションなし
  - super-user は常に1つ以上必要
  - パスワードは最低 6 文字、大文字を含める

#### JUNOS: ユーザ追加の例

- configure mode で作業
  - ユーザ名を指定して class とパスワードを入力
    - super-user は特権ユーザ
    - パスワードは plain-text-password で入力
    - 入力後、暗号化される

```
enpit@vsrx> configure
Entering configuration mode
[edit]
enpit@vsrx# set system login user enpit class super-user
[edit]
enpit@vsrx# set system login user enpit authentication plain-text-password
New password:
Retype new password:
[edit]
enpit@vsrx# show system login
user enpit {
  uid 2000;
  class super-user;
  authentication {
     encrypted-password "XXX"; ## SECRET-DATA
[edit]
enpit@vsrx# commit
```

#### JUNOS: その他基本的な設定

- ホスト名
  - set system host-name で設定
- telnet/ssh の設定
  - set system service telnet
  - set system services ssh root-login deny
    - root でのログインを禁止
- ntp の設定
  - set system ntp server X.X.X.X
    - X.X.X.X のサーバに同期のリクエストを送信する
  - set system ntp source-address
    - ntp での時刻同期に使用するアドレスの指定

#### JUNOS: インタフェース名

- XX-0/0/0 などのような命名
  - LinkSpeed-Chassis 番号/Slot 番号/Port 番号
- Link Speed によって名前が異なる
  - 100Mbps: fe-0/0/0 (Fast Ethernet)
  - 1Gbps: ge-0/0/0 (Gigabit Ethernet)
  - 10Gbps: xe-0/0/0 (10 Gigabit Ethernet)
  - 40/100Gbps: et-0/0/0 (まとめて et へ変更になった)
- 管理用インタフェースは fxp0
  - 製品によっては meO、emO もある
- トンネル用に gr (GRE)、ip (IP-over-IP)、pp (PPPoE)
- 冗長化用に fab (Control Plane)、reth (Redundant Ethernet)、ae (Aggregate Ethernet) などがある

## JUNOS:インタフェース設定

- set interface INTERFACE unit X family FAMILY で設定
  - INTERFACE は ge-0/0/0 などのインタフェース名
  - unit X で論理インタフェースを管理
    - unit は VLAN を使用しない場合、0 を指定
      - VLAN を使用する場合は 0 以外を指定
      - VLAN ID と合わせておくとわかりやすい
  - family はプロトコルファミリを指定
    - IPv4 であれは inet
    - IPv6 であれば inet6
    - その他、ethernet-switching、mpls などがあるが今 回は使用しない

- inet、inet6 の場合、以降 address で IP アドレスを指定
- ディスクリプションの設定
  - set interface description
  - set interface unit X description

#### JUNOS: インタフェース設定の例

- ge-0/0/0 を設定
  - 何の用途に使用しているかわかりやすくするため description を設定
  - IPv4 アドレス(family inet)、192.168.10.1/24 を設定

```
[edit]
enpit@vsrx# set interfaces ge-0/0/0 description external

[edit]
enpit@vsrx# set interfaces ge-0/0/0 unit 0 family inet address 192.168.0.1/24

[edit]
enpit@vsrx# show interfaces ge-0/0/0
ge-0/0/0 {
    description external;
    unit 0 {
        family inet {
            address 192.168.10.1/24;
        }
     }
}
[edit]
enpit@vsrx# commit
```

## Junos: Firewall の設定

- 2種類の設定方法
  - set firewall
    - ACL、主にルータを守るために使用
    - その他、Policy-based Routing など
  - set security
    - Firewall としてフィルタリングする場合に使用
    - zone で管理可能

#### Junos: Firewall の設定

- edit firewall family inet filter FILTER
- set term telnet from source-address IPADDRESS/PREFIX
- set term telnet from destination-port telnet
- set term telnet then accept
- set interface lo0 unit 0 family inet filter input FILTER
- commit

#### Junos: セキュリティゾーン

- ◆ インタフェースに割り当てる仮想的なグループ
  - SRX では主にセキュリティゾーンでトラフィックを制御
- Functional zone
  - 管理系のためのゾーン
- Security zone
  - FW を通過するトラフィックを制御するゾーン
- デフォルトで trust、untrust ゾーンが設定されている

```
enpit@vsrx> show configuration security zones
security-zone client {
    host-inbound-traffic {
        system-services {
            ping;
            traceroute;
        }
    }
    interfaces {
        ge-0/0/2.0;
    }
}
```

zone の設定例

#### Junos: セキュリティゾーン設定

- security zone には interface、host-inbound-traffic の設定を行う
- interface: security zone で管理するインタフェースを指定
  - ge-0/0/0.0 のように指定する
    - 最後の .0 は unit 番号。この例では unit 0
- host-inbound-traffic: SRX 宛のトラフィック
  - system-services
    - zone で通過させるアプリケーションを指定
  - protocols
    - zone で通過させるプロトコルを指定

#### Junos: ポリシー

- zone 間のトラフィックを制御
  - from-zone から to-zone へ片方向の設定を記述
    - match 内が条件
      - source-address
      - destination-address
        - source, destination は address book 名で指定
      - application
        - application はデフォルトで定義されているものがある
        - show group junos-defaults で確認可能
    - then がアクション
      - permit と deny、log でセッションのログを記録

```
security {
   policy {
       from-zone external to-zone client {
           policy icmp {
               match {
                   source-address any;
                   destination-address any;
                   application junos-icmp-all;
               then {
                   permit;
           policy default-deny {
               match {
                   source-address any;
                   destination-address any;
                   application any;
               then {
                   deny;
                   log {
                       session-init;
                       session-close;
             policy の設定例
```

#### **Junos: Address book**

- 各ゾーンで管理するアドレスをまとめたもの
  - wiki: 192.168.100.101 など
- set security zone security-zone 以下に設定
  - policy の source-address、destination-address に使用

```
zones {
    security-zone dmz {
        address-book {
            address wordpress 192.168.100.101/32;
            address wiki 192.168.100.102/32;
        }
    }
}
```

## 各サーバのアドレス

external: 192.168.0.0/24

• SRX: 192.168.0.1

• wordpress: 192.168.0.101

• attacker: 192.168.0.102

• DMZ: 192.168.100.0/24

• SRX: 192.168.100.1

• wordpress: 192.168.100.101

• wiki: 192.168.100.102

• ftp: 192.168.100.103

• samba: 192.168.100.104

• ntp: 192.168.100.105

## 各サーバの mgmt アドレス

• SRX: 10.10.0.1 (設定されていないので、このアドレスを設定すること)

• wordpress: 10.10.100.101

• wiki: 10.10.100.102

• ftp: 10.10.100.103

• samba: 10.10.100.104

• ntp: 10.10.100.105

• log: 10.10.100.106

## ユーザ名とパスワード

- 各種サーバ
  - enpit/Enpitpro

## 演習1: vSRX の基本設定 (1/2)

- vSRX-NG の基本設定を行う
  - root ユーザのパスワード設定
  - enpit ユーザの作成
  - パスワードはともに Enpitpro
  - ホスト名を vsrx に設定
  - 管理インタフェース (fxp0) の設定
  - fxp0 のアドレスは 10.10.0.1/16
  - telnet、ssh の設定
  - ssh は root でのログインを禁止すること
- これらを行った後、enpit ユーザで telnet、ssh できることを確認する

## 演習1: vSRX の基本設定 (2/2)

- vSRX-NG のネットワーク設定を行う
  - 各インタフェースの description、IP アドレス、 security zoneの設定を行う
  - security zone は以下のパケットを許可
  - system-services
    - ping
    - traceroute
  - protocols
    - すべて許可しない
- これらの設定をした上で各ネットワークの サーバ/クライアントから ping での疎通確認を行う

- ge-0/0/0
  - description: external
  - ipv4 address: 192.168.0.1/24
  - security zone: external
- ge-0/0/1
  - description: dmz
  - ipv4 address: 192.168.100.1/24
  - security zone: dmz
- ge-0/0/2
  - description: client
  - ipv4 address: 192.168.200.1
  - security zone: client

## 演習2: Firewall/Router の設定 (1/4)

- 演習のネットワークで以降説明する条件で通信可能なよう設定を行う
  - 各 zone 間の通信に対してポリシーを設定する
  - 必要があれば、address-book も設定すること
  - 設定後、各ネットワークのサーバ/クライアントから ping やブラウザを用いて通信可能 か、通信不可能のとなっているかを確認する
  - ただし、同じ zone 間の確認は行わなくてよい
    - external -> external など

## 演習2: Firewall/Router の設定 (2/4)

- External からのポリシーを以下のように設定する
  - external -> external
  - 許可しない
  - external -> dmz
  - ping、traceroute を許可
  - wordpress には tcp port 80 を許可し、session-init、session-close の口グを取る
  - external -> client
  - icmp のみ許可

## 演習2: Firewall/Router の設定 (1/4)

- DMZ からのポリシーを以下のように設定する
  - dmz -> external
  - ping、traceroute のみ許可
  - dmz -> dmz
  - 許可しない
  - dmz -> client
  - icmp のみ許可

## 演習2: Firewall/Router の設定 (1/4)

- Client からのポリシーを以下のように設定する
  - client -> external
  - すべて許可、ただし session-init、session-close のログを取ること
  - client -> dmz
  - 以下のサーバ、ポートへのアクセスを許可
    - wordpress: http
    - wiki: http
    - ftp: ftp
    - ntp: ntp
  - client -> client
  - すべて許可

#### 演習3-1: WAF の設定

- wordpress にて WAF を動作させ、不正なURL を検知することを確認する
  - apache mod\_security はインストール済み
  - /etc/httpd/conf.d/mod\_security.confで動作を検知のみに変更して wordpress にアクセスできることを確認する
    - また、/var/log/httpd/error\_log に検知口グを確認する
  - どのような理由で mod\_security が通信をブロックしているかを調べる

## 演習3-2: wordpress の脆弱性診断

- client の Kali Linux にインストールされている wpscan を用いて wordpress の脆弱性診断を 行う
  - 脆弱性診断のコマンドは以下の通り
    - wpscan --url 192.168.100.101
  - wpscan にて検出された脆弱性に関して
    - 原因はなにか
    - 対処はどのようにすべきか を考察する

## 演習4: Syslog を用いたログ監視

- log サーバで rsyslog を用いて、vsrx、wordpress の口グを収集する
  - vsrx は、演習2で取得している session-init、session-close のログを転送
  - wordpress は apache のログを転送
- log サーバでは、vsrx、wordpress からのログを、以下のファイルに保存
  - vsrx: /var/log/enpit/vsrx.log
  - wordpress: /var/log/enpit/wordpress.log

## 演習4: Syslog を用いたログ監視

- rsyslog によるログの待受
  - rsyslog の設定ファイルは /etc/rsyslog.conf
  - 各サーバの設定は /etc/rsyslog.d/ に ~~.conf で作成
- rsyslog.conf
  - syslog は UDP: 514 で転送されるため、これを listen するよう設定を行う

#### 演習5: SNMPを用いたトラフィック監視

- log サーバにインストールされている cacti を用いて vsrx のトラフィックを監視する
  - monitor で firefox を起動し、以下の url にアクセス
  - http://10.10.0.106/cacti
    - ユーザ名: admin、パスワード: Enpitpro
- snmp コミュニティを enpit とし、vsrx の各インタフェースのトラフィックを監視

#### 演習5: SNMP を用いたトラフィック監視

- vsrx の設定
  - snmp 以下にコミュニティ、アクセス制限、権限を設定
- 設定例
  - clients のアドレスは各環境で変更すること
  - 他のノードからアクセスできないようにすること
  - 他のノードから書き換えできないようにすること

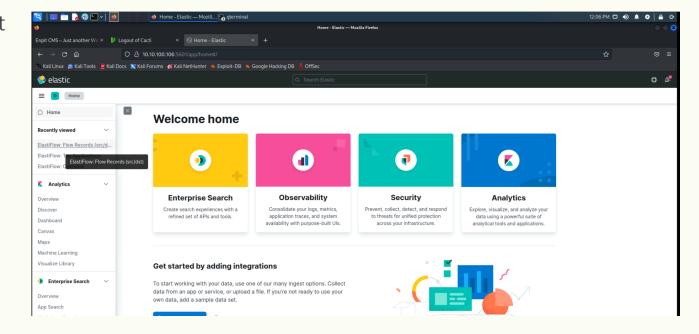
```
[edit]
root# show snmp
interface fxp0.0;
community enpit {
    authorization read-only;
    clients {
        100.64.209.106/32;
        0.0.0.0/0 restrict;
```

# 演習6: Netflow によるトラフィック監視 vSRX の設定

- set forwarding-options sampling family inet input rate 1024
  - Sampling rate を 1024 に設定
- set services flow-monitoring version9 template ipv4 ipv4-template
  - Netflow version9 のテンプレートを作成
- set services flow-monitoring version9 template ipv4 flow-key flow-direction vlan-id
  - 作成したテンプレートで取得する flow-key を設定
- set forwarding-options sampling family inet output flow-server 10.10.100.106 port 2055
  - NewFlow の送信先を設定
- set forwarding-options sampling family inet output flow-server 10.10.100.106 version9 template ipv4
  - NetFlow の送信先に適用するテンプレートを指定
- set forwarding-options sampling family inet output inline-jflow source-address 10.10.0.1
  - NetFlow データを送信する際の送信元アドレスを指定

## 演習6: Netflow によるトラフィック監視

- http://10.10.100.106:5601 にアクセス
- ElastiFlow: FlowRecords src/dst をクリック



## その他

- 演習中にわからない点、うまくいかない点があれば質問すること
- レポートの内容
  - 各演習課題で行った設定、確認したことをスクリーンショットを用いて説明すること
    - 特別に考慮した点があればそれも説明してもよい
- 演習環境は 11/30 まで利用可能